

令和6年度 学校図書館活用推進校 実践報告

新潟市立早通中学校

R6年12月末現在

学級数	生徒数
普通 9	277人
特別支援 4	

R6年12月末現在

蔵書数	12629冊
貸出冊数	2903冊
1人当たりの貸出冊数	10.5冊

1 本校図書館教育の目標

- ・ 図書資料の活用を通して、主体的に問題解決に向けて取り組む生徒を育てる。
- ・ 進んで読書に親しみ、豊かな心や創造力をもった生徒を育てる。

2 図書館の実態

特別教室棟の3階に位置し、普通教室棟からは距離がある。そのため、同じ階である1年生の利用は多いものの、1、2階の2・3年生の利用が少ない。

また、音楽室が隣にあり、昼休みに自主練習をする生徒もいるため、静かに読書をするのに適した環境とは言い難い。

3 図書館の機能

[学習センターとしての取り組み]

- ・ 授業で使用する資料の提供。公共図書館からの取り寄せ。実践までの下準備として関連する図書を用意、足りない場合は市立図書館から資料を取り寄せ、図書館内でも関連本を展示。



※ 乳幼児とのふれあい授業の様子（家庭科）



※ 図書館内に関連本展示

この他に市立図書館からも取り寄せ



※ ライフプラン授業関連本（1年総合）



※ 百人一首（1年国語）

- ・ 修学旅行の下調べ用資料の提供。
- ・ 放課後自習スペースとして開放。
- ・ 遊びながら学ぶクイズの掲示

図書館前廊下に、野菜の旬や季節の言葉などを、マグネットを使い移動させて答えるクイズを貼っておいた。音楽室への行き帰りに楽しみながら利用する生徒が多かった。給食で出される野菜の旬について知る機会にもなった。



〔情報センターとしての取り組み〕

- ・ 新聞記事を掲示。

図書館前の廊下に SDGS や読書に関する記事などのコピーを掲示している。読売中高生新聞に月に1回載っているテスト形式の問題を専用バインダーに綴じ、新聞の横に置いている。この中から時々図書館クイズを出題する。

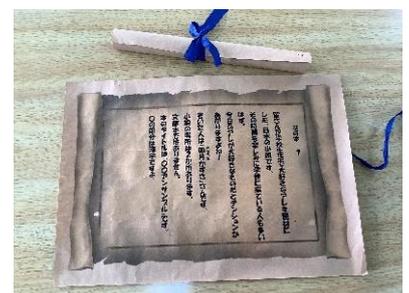
高校紹介の新潟日報の記事をラミネートして、公立高校問題集や高校名鑑と一緒に置いている。在校生の書いたものなので興味を持ちやすく、友達同士数人で見ていることが多い。



- ・ 職業や進路に関する本を、いちばん目につきやすい貸出カウンター近くにまとめて配架している。
- ・ 部活動の棚を、色やイラストでわかりやすく配架。
- ・ 図書館便りを毎月発行。

〔読書センターとしての取り組み〕

- ・ 1・2年生を対象に図書館利用のオリエンテーションを実施。利用案内や各分類の配架場所などを説明後に、本の内容を書いた「指令書」をもとに班ごとに本を探してもらった。謎解き要素があり好評だった。



・図書委員会による移動図書館の実施

今年度初めての試みとして、朝読書の時間に移動図書館を行った。

前日までに、クラス毎に15～20冊の本を選びカゴに入れて準備する。

学年毎に日にちを決め、当日図書委員は早めに登校し教卓の上に本を並べる。

貸出しは図書委員が廊下でiPADを使って行った。



教卓で本を選ぶ



貸出しは廊下で行う

・ボランティアによる語り・読み聞かせの実施

年3回1年生を対象に朝読書の時間に、ボランティアによる語り・読み聞かせを行っている。当日は早めに登校するよう、前日に図書委員が呼び掛ける。



・秋の読書旬間の実施

今年度異動して来られた先生を中心におすすめ本を紹介してもらい本と一緒に展示した。

紹介された本を所蔵していない場合は、公共図書館や他校から借用して展示した。

先生がどんな本をおすすめしているのか興味を持ち、見に来る生徒が多くいた。



給食とのコラボ企画として、給食のメニューがでてくる小説や絵本を給食室前に、本とあらすじなどを書いたボードと一緒に展示。



- ・ALT による日本の昔話や絵本の読み聞かせの実施。



昼休みに日本の昔話や絵本を、ALT が単語や文法の解説をしながら読み聞かせた。最初は面白半分で聞いていた生徒も多かったが、2 回目には受験に備えリスニングの勉強にと聞きに来る生徒もいた。

ALT としても生徒とコミュニケーションをとるいい機会になるということで、今後も続ける予定。

- ・本の福袋貸出

冬休み前の特別貸出で、図書委員がテーマに沿って選んだ本 2 冊を袋に入れ、表にヒントになる絵や文字を書いて貸出。普段本を借りない生徒も表の絵や言葉にひかれて借りていた。



表の窓にイラストや紹介文を記載

- ・新年のイベントとして本を借りた人におみくじを配布。

4 小中連携

- ・図書館便りの交換（早通南小学校）

お互いの図書館の様子を知るために図書館便りを交換している。

毎年 3 月には 6 年生向けに、中学校を紹介する特別号を発行。表面は司書、裏面は図書委員が作成。便りには中学校で使えるプラス 1 冊券を付けている。実際に何人かは入学後に持って来て使用する。

- ・夏休み地域開放

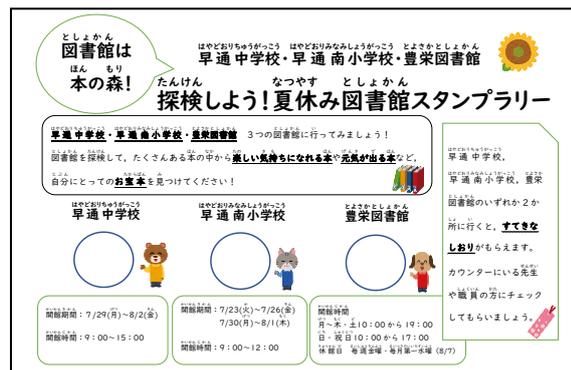
早通南小学校と連携し「夏休み図書館スタンプラリー」を開催した。

早南小・早中・豊栄図書館の 3 か所にスタンプを用意し、そのうち 2 か所でスタンプを押してもらおうと自分の学校でしおりが貰える。

開館期間は小・中学校は 1 週間、豊栄図書館は夏休み期間中とした。小学生はたくさん来てくれたが、小学校へ行った中学生は少なかった。（小学校は午前中のみ開館で、部活動のある生徒は行けなかった。）



本を読む小学生



スタンプカード

・おすすめ本の紹介

早中からは図書委員が、小学生向けのお勧め本ポスターを1・2年生向け、3・4年生向け、5・6年生向けの3種類を作成し、早通南小学校に展示してもらった。早通南小学校からは、先生方から中学生に向けたおすすめ本を紹介してもらった。知っている先生のお勧め本を見つけて、〇〇先生元気かなと、小学校時代を懐かしがっていた。

所蔵のない本は他校や公共図書館から借りて、なるべく原本を展示した。

5 成果と課題

- ・教室棟と離れているため来館・貸出とも特定の本好きの生徒に限られていた。そのため、まずは図書館に興味を持ってもらおうと、季節毎のイベントやクイズなど興味を持ちそうな企画を実施した。イベント中は普段図書館に来ない生徒も来館し、多くの生徒で賑わった。
- ・イベントやクイズなどで来た生徒に、放課後も開館していると積極的に声をかけたことで、その生徒が友達を連れて放課後勉強しに来るようになった。
- ・図書委員会では移動図書館など、今までやったことのない新しい企画を実行することができた。
- ・スタンプラリーイベントでは多くの小学生が訪れ熱心に本を読んでいた。なかには午前・午後ともに訪れる生徒が複数いて、図書館への関心の高さがうかがわれた。
- ・初めて移動図書館を実施したが、朝読書の時間前に設定したため、ぎりぎりで登校してくる生徒が多く、本を選んでいる余裕が無かった。今後続けるのであれば、実施時間の変更を検討したい。
- ・イベントでの来館者は多かったがそれを本の貸出に結び付けられなかった。

・